

理科・環境教育助成 成果報告書

第1回 期間：2004年11月～2005年11月

氏名：竹村 志保美

所属：厚木市立妻田小学校

課題名：折り紙ヒコーキを作ろう

1. 課題の主旨

遊びを忘れかけている現代の子どもたちに、素朴にして、かつ世界に誇れる伝承文化である折り紙ヒコーキを体験させ、夢中になる喜びと豊かな想像力を育成する。

具体的には、学校や公民館等で、折り紙ヒコーキづくりの講習とともに折り紙ヒコーキの大会を開催する。

2. 活動状況

①企画の構想

NHK出版の「折り紙ヒコーキ進化論」（戸田拓夫著）を精読し、どのような企画を立てれば良いか検討した。「折り紙ヒコーキの歴史」や「折り紙ヒコーキの折り方」や「折り紙ヒコーキの大会の持ち方」などについてまとめた。

②事業実施会場の選定と材料の調達

折り紙ヒコーキの実施会場については、PTAや公民館と相談した。PTAについては、本校にふれあい係という組織があり、その中に親子のふれあいを目的にしている「サタデークラブ」で実施可能であることが分かった。また、公民館事業については、今年度から地域子ども教室を開催することから、その時に「折り紙ヒコーキ」をやって欲しいという依頼があった。

材料は、折り紙ヒコーキのホームページから、サトウキビの繊維で作ったガバス紙が環境に優しいことから採用することにした。

③取材旅行

国営備北丘陵公園で紙ヒコーキのイベントがあることを知り、大会の様子を見学するとともに、折り紙ヒコーキの博物館やヒコーキタワーを見学するために、折り紙ヒコーキの第一人者である戸田拓夫さんを訪ねて、9月17日から一泊二日の広島への旅に出かけた。

1日目は、紙ヒコーキ博物館と豊松村のヒコーキタワーの見学。2日目は国営備北丘陵公園でのイベントへの参加。読むと見るとでは大違いで、多くの収穫を得ることができた。

④講習会の内容と大会の概要

講習会の内容

○折り紙ヒコーキの原則

○ヒコーキの種類…へそヒコーキ、ヤリヒコーキ、イカヒコーキ、スカイキング

○うまく飛ばすための調整

○飛ばし方とそのコツ

大会の概要

○スペースシャトルの滑空をデモンストレーションする。

○距離競技…主にヤリヒコーキを使って行う。上位者には記録賞を出す。

○ピンポイント競技…フラフープや傘を標的にして中に入れる。

○滞空競技…人数が少ない時は可能だが、多いと困難を来す。

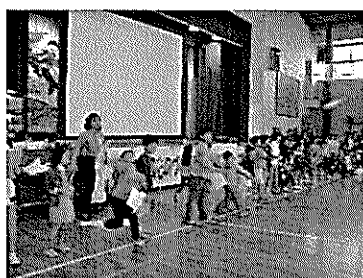
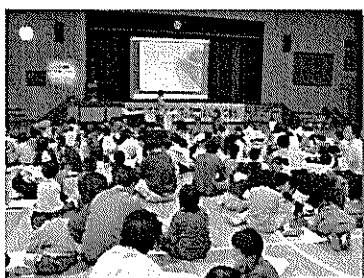
⑤イベントの開催

第1回 9/24 サイエンスもの作りフェスティバル 9:00～レディースプラザ 8名参加

第2回 9/29 「ギネスに挑戦 紙ヒコーキを作ろう」妻田小 子ども広場 80名参加

第3回 9/30 「ギネスに挑戦 紙ヒコーキを作ろう」清水小 子ども広場 130名参加

第4回 11/5 「サイエンスもの作りフェスティバル in 妻小」妻田小 185名参加



第4回 妻田小「折り紙ヒコーキ大会」

3. 結果

折り紙ヒコーキは、子どもたちと夢を語りながら取り組める活動のため、4回のイベントはその都度、多くの子どもたちが参加するとともに夢中になる時間を過ごすことができた。また、今後もやってみたいというご意見が多かった。一緒に参加した大人の人達も子ども同様、夢中で取り組む姿が見られた。

短期間に4回のイベントを開催できた理由として、折り紙ヒコーキの第一人者である戸田拓夫さんの指導や資料提供があったこと、現代社会が子どもの遊びの大切さが認識され、公民館事業で「子ども広場」が本年度から実施されたことや、サイエンスもの作りフェスティバルと同時開催ができたことなどがあげられる。

4. 今後の課題と発展

子どもたちに折り紙ヒコーキを通じて、いろいろ工夫したりすることによってより遠くに、より長く飛ばすことができる感動を味わえるイベントを今後も地域の要望に添って実施していきたい。

今回、財団より理科・環境教育助成を受け、このようなイベントを実施ができ、心より感謝いたします。

発表論文、投稿記事及び当財団へのご意見など

・厚木伊勢原ケーブルテレビの「こちらワクワク情報局」で、11月14日から20日までの1週間放映された。